【資料】灰塚区を対象とした意見交換会（R8.6.29）の概要

日　時：令和8年6月29日（月）19:00～20:25
場　所：灰塚地域農業推進拠点施設
出席者：灰塚区［●］ 区長、地区住民 14 名
　　事務局［○］ 部長、学校教育課、教育施設課（5 名）

■次第
1 開会
2 教育部長挨拶
3 区長挨拶
4 本日の趣旨説明
5 現状の説明
6 アンケート結果の説明
7 意見交換

■意見交換の概要
【アンケート結果に対する感触】
●校区が変わった場合、親の負担がないよう在校生への配慮等の検討は？
○在校生や兄弟姉妹への配慮については今後の検討課題。以前、美咲野区の生徒が大津中から北中に通うよう変更になった時は、地元の方々の意見を聴き、上の子が卒業するまでは下の子も大津中に通うことができるようにした事例がある。
兄弟姉妹が別々の学校に通うことは好ましくないため、今回も住民の皆様と相談しながら検討していく。
また、南小に通う児童が1人になるような場合、通学の不安があるため、安全な通学方法を検討していく必要がある。
●アンケート結果について、灰塚区において南小を希望する意見が多かったことは賢明な結果だと思う。自分で距離を測ったところ、大津小までは 2.6 ㎞、南小までは 1.6 ㎞であり、南小選択は時間的優位性がある。

●令和 12 年 4 月に南小が新校舎となるが、途中で転校し友人と離れることになるため、例えば来年度から校区を変更し南小への通学は可能か？
○校区は通学区域に関する規則で定めているため、これを改正し教育委員会会議に諮り、議会にも説明し承認を受ければ可能。令和 12 年度を予定し

ているが、数年前倒しで南小に通いたいという意見があれば、教育委員会や通学区域等検討委員会で検討していく。

●夏の暑さや不審者が心配なため、通学距離は近い方が安心できる。

【(仮に学校を自分で選べるとした場合)校区を考える上で重視する点】

↓↓↓

1クラスの児童数(教育環境)

子どもたちに対する先生の目配り(教育環境・学校規模)

歩道が整備されている(通学の安全)　など

【その他(質問、要望等)】

●今後、児童数が増えた場合の対応は？

○将来、開発等で児童数の増加も考えられるため、広い学習空間を整備し、間仕切りを設けることで教室として活用できるよう工夫する。なお、大幅に増加する場合は増築する。

●空港アクセス鉄道の中間駅ができれば、地域開発が進むことも考えられるが？

○可能性はあるが、文部科学省の規定で、建替え時は現状の児童数を基に建築することになる。将来、児童数が増加したことによる増築は、補助率が1/3 から 1/2 となり経済的に有利。

●ここ数年で町の基金を増額し、防犯カメラやガードレールの設置といった通学路の整備を行ってほしい。

【意見交換会参加者の全体的意向】

◆アンケート結果のとおり、大津小より距離が近い南小への通学を希望。

◆通学路の安全面について、万全に対応を。